

1 不祥事の発生状況

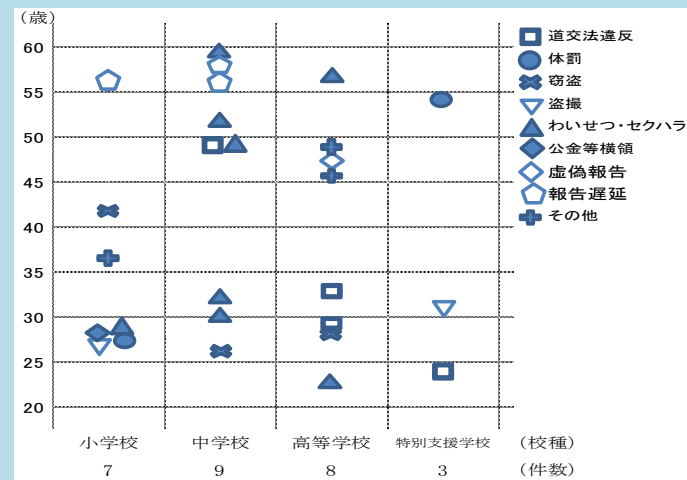
(1) 不祥事行為別件

H30.7月末現在

()内は女性で内数

年度	道交法違反	体罰	窃盗	盗撮	わいせつ・セクハラ	公金等横領	虚偽報告	報告遅延	その他公務外非行	合計
27年度	1		1(1)	1	3		1(1)			7(2)
28年度	2	1	1		2	1		1	2	10
29年度	1		1(1)	1	3					6(1)
30年度		1						2	1	4
合計	4	2	3(2)	2	8	1	1(1)	3	3	27(3)

(2) 校種別・年齢別分布



(3) 性別

	人数
男	24
女	3
計	27

(4) 配偶者の有無

	人数
無	11(3)
有	16
計	27(3)

()内は女性で内数

【全体の傾向】

- ・わいせつ・セクハラに関する事案が多く発生している
- ・全校種において不祥事が発生している
- ・若年からベテラン教職員まで、不祥事を起こしている
- ・男性による不祥事事案が圧倒的に多い
- ・独身者と妻帯者の差異は見られない

2 不祥事の発生原因

主な原因1

組織的な取組が不十分なもの

- 職場内の体制、気づき、育成、サポートが不足している
 - ・「仕事を先送りすることがあり、普段から優先順位をつけられず、改善しようと思ってもできない」
 - ・「指導や支援の成果がうまく得られず、焦りがあった」
- チェック体制が不足している
 - ・「会計は全て自分たちで行っていた」
 - ・「最後に帳尻を合わせてお金を戻しておけば済むだろうと思った」
- メンタルヘルスの組織的支援が不足している
 - ・「毎日の生活のいろんなことに漠然とした不安を覚えていた」
 - ・「ミスが周りに発覚することが恐ろしく、嘘をついた」

組織内での孤立や1人での抱え込み

管理職のマネジメント

主な原因2

教職員個人の資質に関するもの

- 公務員としての規範意識が不足している
 - ・「ばれなければかまわないだろうと思った」
 - ・「最後に帳尻を合わせてお金を戻しておけば済むだろうという気持ちがあった」
- 感情のコントロールが十分にできていない
 - ・「いけないことだと思ったが、行動を抑えられなかった」
 - ・「自分の欲・感情に負けてしまった」
- 不祥事を自分も起こすことがあると捉えられていない
 - ・「相手の気持ちをあまり考えずに行動してしまった」
 - ・「セクハラやパワハラをしている感覚がなかった」

学習の不足

ストレス

自己中心的な認識

主な原因3

職場環境の整備不足

- 職場環境が十分に整えられていないことで不祥事の発生リスクが高まった
 - ・「この部屋では男女の2人だけで勤務していた」
 - ・「職員室から離れた部屋で、男性教員と女性生徒の2人だけの指導が続いてしまった」
- 管理職員のマネジメントの不足
 - ・「普段からの積み重ねで不満もたまっていったようだが、そのことに気づいてやれなかった」
 - ・「今回のような最悪の事態を想定できなかった自分の責任を痛感しています」

管理職のマネジメント

3 不祥事防止対策

人材育成の視点に立ったチーム学校の構築

- 学校組織マネジメントの強化による人材育成(不祥事防止を含む)の充実
 - ・校長のみならず、教頭や主幹教諭等が若手教員の人材育成を担っていることを明確にする
 - ・管理職等がチームとして若手教員の人材育成ができる体制を構築する
 - ・そうした取組を通じて部下職員の人材育成ができる管理職を育成する
- 若年者を対象とした人材育成のための支援
 - ・特に若年教員には、メンター制を導入した組織的な人材育成の体制強化する
- 学校のチェック体制の構築
 - ・学んだ会計事務の基礎をもとに、組織でチェックする仕組みを構築する
- 学年会や教科会等によるOJTの推進
 - ・学年主任や教科長による学級経営や授業づくりを中心としたOJTの実施する
- メンタルヘルス対策
 - ・誰でも相談できる体制の構築と、ストレスチェックなどを積極的に活用する

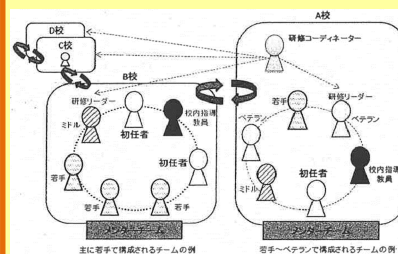
教職員個々の資質の向上

○研修の充実

不祥事は誰でも起こしうること、高リスクな職場であることを改めて認識させる具体的な研修を実施

□平成30年7月より
研修プログラムを活用し、全ての学校において、具体的な事例を踏まえた校内研修を実施

<メンター制の一例>



職場環境の整備

○職場環境の点検と整備

- ・校務分掌を見直し、男女2人だけで常駐するような体制を避ける
- ・すりガラスは透明ガラスに入れ替えていく

学校組織在り方検討委員会の設置

【目的】

チーム学校の構築に向けて、学校の組織力の向上を図り、組織的な人材育成や不祥事防止対策に資する。

【重点内容】

- ① 若年教職員を中心とした組織的な人材育成の在り方について
- ② 教職員のキャリアパスを踏まえた管理職の育成の在り方について
- ③ 人材育成を軸とした組織的な不祥事防止対策について

【委員】

- ・学校代表者・・・保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等 (校長、教頭、主幹教諭、養護教諭、事務職員、スクールカウンセラー 等)
- ・専門家(企業コンサルタント、大学教授、有識者 等)